

7. 夏秋期におけるアスパラガス異常茎のタイプ別発消長（情報）			
<p>[要約]</p> <p>露地アスパラガスの夏芽収穫期に発生する異常茎には「開き」、「山羊角」、「曲がり」、「タケノコ」、「先細り」、「心止まり」があり、それぞれ特徴的な消長を示す。</p>			
研究室名	中山間農業研究室	連絡先	0868-57-2758

[背景・ねらい]

アスパラガスの露地栽培では、総収量の過半を占める夏秋期に様々な異常茎が発生し、収量、品質の低下が問題となっている。そこで、生産現場における異常茎のタイプ別の発生状況を調査する。

[成果の概要・特徴]

1. アスパラガスの異常茎は「開き」、「山羊角」、「曲がり」、「タケノコ」、「先細り」、「心止まり」の6タイプに分類できた。
2. 「開き」は収穫前に穂先の鱗片葉が開き、擬葉が伸長するもので、降水量が少なく、気温が高い時期に多かった（図1、2）。
3. 「山羊角」は若茎の先端が曲がる。夏芽収穫始めの6月下旬に発生率が高く、徐々に低下するが、収穫後半の9月下旬以降急激に増加する。土壌が乾燥すると発生しやすい傾向が見られた。
4. 「曲がり」は若茎の胴の部分が曲がる。収穫前半の発生率が高く、徐々に減少する傾向が見られた。
5. 「タケノコ」は萌芽直後（1～6cm）に伸長が停止し、タケノコ状となる。直径2cm以上の太茎に多く、症状が進むと頂部が裂開する。収穫初期および後期は少なく、8月を中心に発生が認められた。
6. 「先細り」は若茎が伸びるにつれて細くなるもので、収穫前半に多い傾向が認められた。
7. 「心止まり」は生長点が壊死し、伸長が停止する。収穫初期は発生が少ないが、徐々に増加し、収穫後半に多い傾向が認められた。

[成果の活用面・留意点]

1. 「開き」は灌水によって発生が低減できる（関連情報）。

[具体的データ]



開き² 山羊角 曲がり タケノコ 先細り 心止まり

図1 アスパラガス「スーパーウェルカム」異常茎の種類

² 収穫遅れにより生じる「開き」は含まれていない

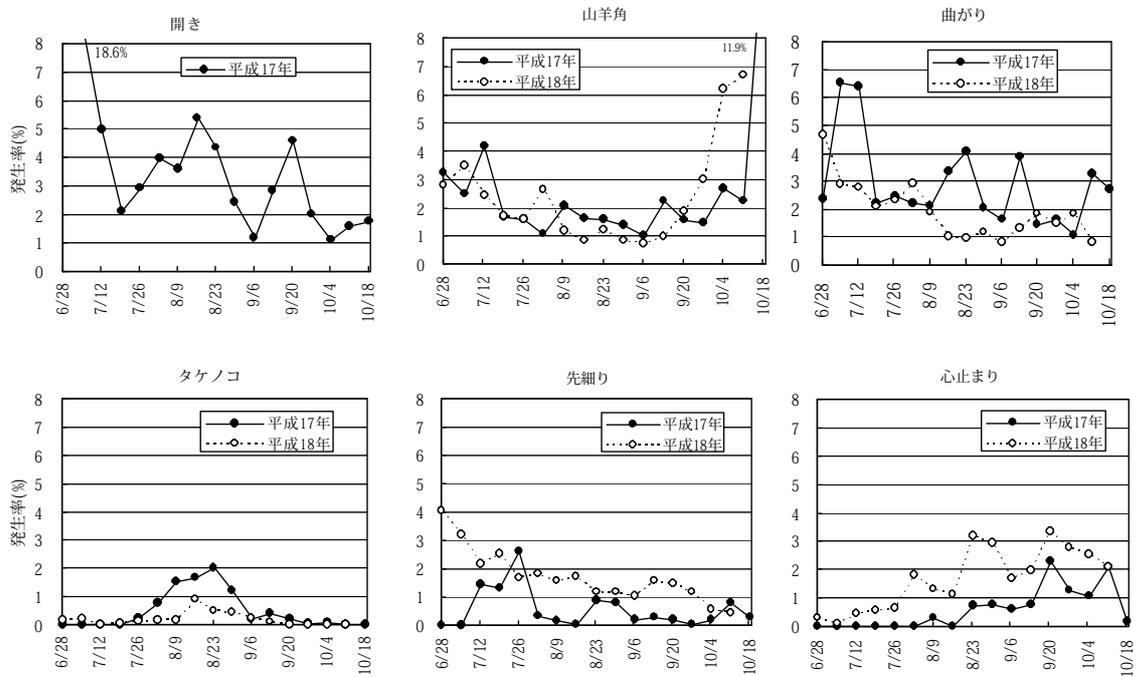


図2 アスパラガス「スーパーウェルカム」異常茎の年次発生消長

[その他]

試験研究課題・事業名：露地アスパラガスの夏秋期における高品質化と安定多収技術の開発

予算区分：県単

研究期間：平成17～18年度

関連情報等：平成16年度主要成果「アスパラガスの灌水開始点」